



Green Value Chain促進ネットワーク会員 第1回イベント

知っておきたい！GHGプロトコル・SBT・RE100の最新動向

2025年7月2日（水）

グリーン・バリューチェーン プラットフォーム事務局

Trusted Global Innovator
NTT DATA Group

NTT data

アジェンダ

1. 2025年上期における気候関連の情報開示分野の最新動向
2. お知らせ（SBT、RE100の最新情報）
3. SBT Net-Zero Standard改定案
4. RE100 技術要件の改定
5. GHGプロトコルの改定

2025年上期における気候関連の情報開示分野の最新動向

2025年上期は、気候関連開示分野の各種フレームワークにおいて様々なアップデートが実施された

GHGプロトコル改訂に向けたWG（2024.9～）

- GHGプロトコル改訂に向けて2024年9月よりScope1、2、3それぞれでWGを設立し議論を開始
※概ね月1回程度の開催頻度

ESRS改正案の公表

サステナビリティ開示基準（SSBJ）最終化

- 一般開示基準
- 気候関連開示基準 S2号
対象企業：時価総額3兆円企業の東証プライム上場企業
適用時期：2027年3月期

米国における気候関連開示規則の事実上廃止

CSRDの適用延期決定

IFRS S2号「気候関連開示」の修正案提示

GHGプロトコル改訂に向けたWG（2024.9～）

- 草案の提示・パブリックコンサルテーションの受付
※2027年に最終化予定

2025.1

2025.2

2025.3

2025.4

2025.5

2025.6

2025.7

SBT 新ネットゼロ草案

- 地域や企業の規模による要件の変更
- スコープ1・2それぞれで目標を設定

2026年に最終化予定

RE100 技術要件改定

- 石炭混焼由来の電力使用禁止
- 証書の償却確認

SBT パブリックコンサルテーション締切
（2025.3～6）

バーゼル銀行監督委員会（BCBS）
銀行業界における気候関連リスクの枠組みを公表
開示は義務ではなく、各国判断とする旨を発表

2025年上期における気候関連の情報開示分野の最新動向

国内企業のGHG算定・目標設定に影響のある、SBT・RE100・GHGプロトコルの改定動向についてご紹介

GHGプロトコル改訂 に向けたWG（2024.9～）

- GHGプロトコル改訂に向けて2024年9月よりScope1、2、3それぞれでWGを設立し議論を開始
※概ね月1回程度の開催頻度

ESRS改正案の公表

サステナビリティ開示基準 （SSBJ）最終化

- 一般開示基準
- 気候関連開示基準 S2号
対象企業：時価総額3兆円企業の東証プライム上場企業
適用時期：2027年3月期

米国における気候関連開示規則
の事実上廃止

CSRDの適用延期決定

IFRS S2号「気候関連
開示」の修正案提示

GHGプロトコル改訂 に向けたWG（2024.9～）

- 草案の提示・パブリックコンサルテーションの受付
※2027年に最終化予定

2025.1

2025.2

2025.3

2025.4

2025.5

2025.6

2025.7

SBT 新ネットゼロ草案

- 地域や企業の規模による要件の変更
 - スコープ1・2それぞれで目標を設定
- 2026年に最終化予定

RE100 技術要件改定

- 石炭混焼由来の電力使用禁止
- 証書の償却確認

SBT パブリックコンサル
テーション締切
（2025.3～6）

バーゼル銀行監督委員会
（BCBS）
銀行業界における気候関
連リスクの枠組みを公表
開示は義務ではなく、各国
判断とする旨を発表

お知らせ（SBT、RE100の最新情報）

SBT Net-Zero Standard改定案、RE100の技術要件に関する最新情報はGVCプラットフォームで公開中

グリーン・バリューチェーンプラットフォーム
Green Value Chain Platform
「脱炭素経営」の総合情報プラットフォーム

知る

測る

減らす

取組事例

ネットワーク会員

各種ガイド

環境省
Ministry of the Environment

経済産業省
Ministry of Economy, Trade and Industry

農林水産省

English

イベント&トピックス

Q&A

お問い合わせ

情報検索

01
脱炭素経営とは

02
脱炭素経営が求められる背景

03
脱炭素経営に取り組む意義・目的

04
脱炭素経営に向けた取組の広がり

05
排出量削減目標の設定

06
原典

知る 05

排出量削減目標の設定

2025年5月26日更新

SBT Net-Zero Standard改訂案を掲載しました。

(1) SBT 概要資料 (2025年1月31日最新版)

SBTの概要や参加企業の状況等を8スライドにまとめたものです。

PDF

SBT 概要資料 (PDF)

PPT

SBT 概要資料 (PPT)

(2) SBT 詳細資料 (2025年1月31日最新版)

SBTに関する解説をはじめ、認定要件の詳細、認定事例などを紹介しています。

(2025年1月31日現在)

SBTiの参加日本企業1,525社

認定取得

1,435社
(うち中小企業 1,165社)

コミット
(2年以内のSBT設定を表明)

90社

出典：グリーン・バリューチェーン プラットフォームHP
© 2025 NTT DATA Corporation

5

NTT DATA

SBT Net-Zero Standard改定案（1/3）

Net-Zero Standard改定案が公表され、パブリックコメントを踏まえ、現在SBTiにて再度検討中
企業分類の新たな考え方が示され、規模によっては基準年データの第三者保証が求められる可能性がある

項目		Ver1.2（従来）	Ver2.0（改定案）
スコープ		主に目標設定にフォーカス	基準年の実績評価、目標設定、実行、進捗評価と開示、主張まで含む包括的なスコープ
審査モデル		目標を事前に評価、進捗評価なし	進捗評価、サイクル終了後の新たな目標設定までを含む
基準年のデータ保証		該当なし	カテゴリA企業* に対し、基準年GHG排出インベントリの第三者保証（限定的保証）を求める
目標	基準年	2015年以降	初回審査から3年前より後（初回目標設定企業）
	短期目標	全スコープで必要（スコープ3排出量が総排出量の40%以上を占める場合）、中小企業はスコープ3除外可	全スコープで必要（カテゴリA企業）、スコープ1・2のみ（カテゴリB企業**）
		5年～10年の間で設定	5年間（または2035等のマイルストーン年に合わせる）
	長期目標	全スコープで必要	カテゴリA企業にスコープ1・2で長期目標設定を要求（スコープ3は協議中）
	スコープ統合目標	スコープ1・2・3の統合可	各スコープに対して個別目標を設定する必要あり

*カテゴリA企業：すべての国における大企業および高所得国および上位中所得国に属する中規模企業

**カテゴリB企業：下位中所得国および低所得国に属する中規模企業およびすべての国における小規模および零細企業



※本資料はGVCホームページ「知る（排出量の削減 目標の設定）」よりご確認ください

SBT Net-Zero Standard改定案（2/3）

スコープ2ではロケーション基準（必須）に加え、マーケット基準またはゼロカーボン電力目標の設定が求められるほか、スコープ3の目標設定の考え方自体が変更となる可能性がある

項目		Ver1.2（従来）	Ver2.0（改定案）
目標 （続き）	スコープ1	SDAおよび総量削減（ACA）（予算保全なし）	SDAおよび改訂された総量削減アプローチ（ACA）（オーバーシュートを考慮）（協議中）
	スコープ2	ロケーション基準またはマーケット基準目標（再エネ目標のオプションあり）	ロケーション基準（必須）に加え、マーケット基準またはゼロカーボン電力目標を設定 （可能な場合）時間的・地理的一致
	スコープ3	最小バウンダリ67%（短期）、90%（長期）	最も関連性のある（relevant）排出源*に基づいたバウンダリ
		排出削減目標に重点	アラインメント（整合性）目標**等、排出量以外の指標・目標へのフォーカス
	残余排出	中和化による対応に集中	残余排出への対応について、除去目標の義務化を含む3つのアプローチを提示（移行期およびネットゼロ年以降）

*総スコープ3排出量の5%以上を占めるカテゴリおよび総スコープ3排出量の1%以上または少なくとも年間10,000t-CO₂eを占める高排出活動

**低炭素またはゼロカーボンの供給源からの調達を段階的に拡大する目標など

SBT Net-Zero Standard改定案（3/3）

進捗の裏付けに関しては、これまで具体的なガイダンスが示されていなかったものの、ブック・アンド・クレーム等の間接的緩和（indirect mitigation）による裏付けを行う可能性が示されている。

項目	Ver1.2（従来）	Ver2.0（改定案）
バリューチェーンを超えた緩和（BVCM）	BVCMを推奨	BVCMを行う企業に対するインセンティブ強化
進捗の裏付け	ガイダンスなし	排出源をトレース可能な介入または活動プール単位（direct mitigation）、 暫定的にブック・アンド・クレーム等の間接的緩和（indirect mitigation）による裏付け
		カテゴリA企業に進捗への第三者保証を要求（協議中）
主張	一般的なガイダンスをSBTiコミュニケーションガイドで提供	基準によって明確な主張が可能（協議中）。主張を実証する必要性について予備的な要件を概説。

RE100 技術要件の改定

改定されたRE100技術要件では、石炭を含む混焼による電力の使用が今後再エネ電力として認められない。

- 石炭を含む混焼によって生み出された電力は再エネ電力の使用として主張することが認められない
- 今後、石炭以外の化石燃料との混焼・混合も規制される可能性がある

石炭混焼 の禁止	- 石炭との混焼によって生成される再エネ電力は調達禁止 2027年のCDP開示サイクルでRE100企業の報告に適用
対象 の除外	なし

技術要件（Ver.4.0）

石炭との混焼によって発電された電力の「再生可能な部分」について、加盟企業が再エネ利用とみなして主張することが可能。



技術要件（Ver.5.0）

石炭を含む混焼によって生み出された電力について、再エネ電力の使用として主張することが認められない。



※本資料はGVCホームページ「知る（脱炭素経営に向けた取組の広がり）」よりご確認いただけます

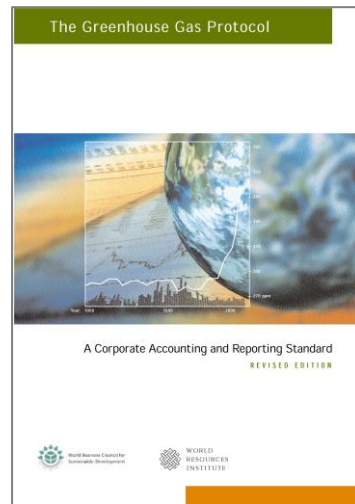
GHGプロトコルの改定 | GHGプロトコル概要

GHGプロトコルとは企業等が温室効果ガス（GHG）排出量を算定・報告する際の基準を発行する機関であり、世界中の企業・各種フレームワークが参照している

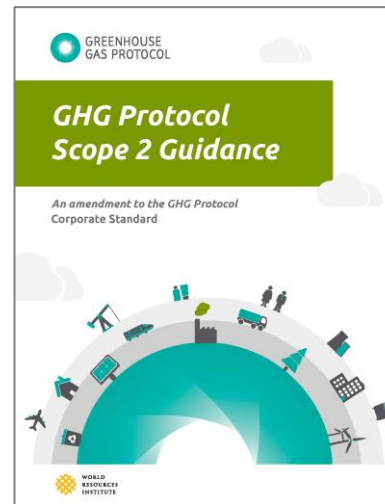
2024年よりGHGプロトコルの改定に向けた検討が開始されており、改定後は企業のGHG算定や目標設定・削減取組の管理等において影響を及ぼす可能性がある。

GHGプロトコルから発行されている主な基準

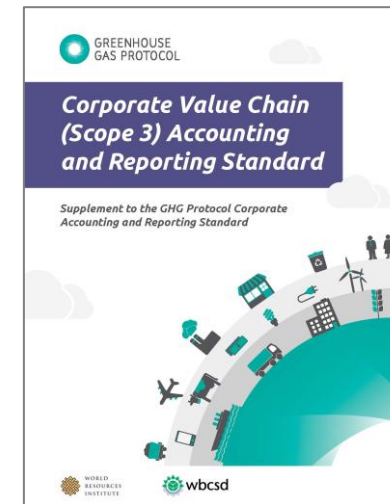
Corporate Standard
(2000年公表、2004年改定)



Scope 2 Guidance
(2015年公表)

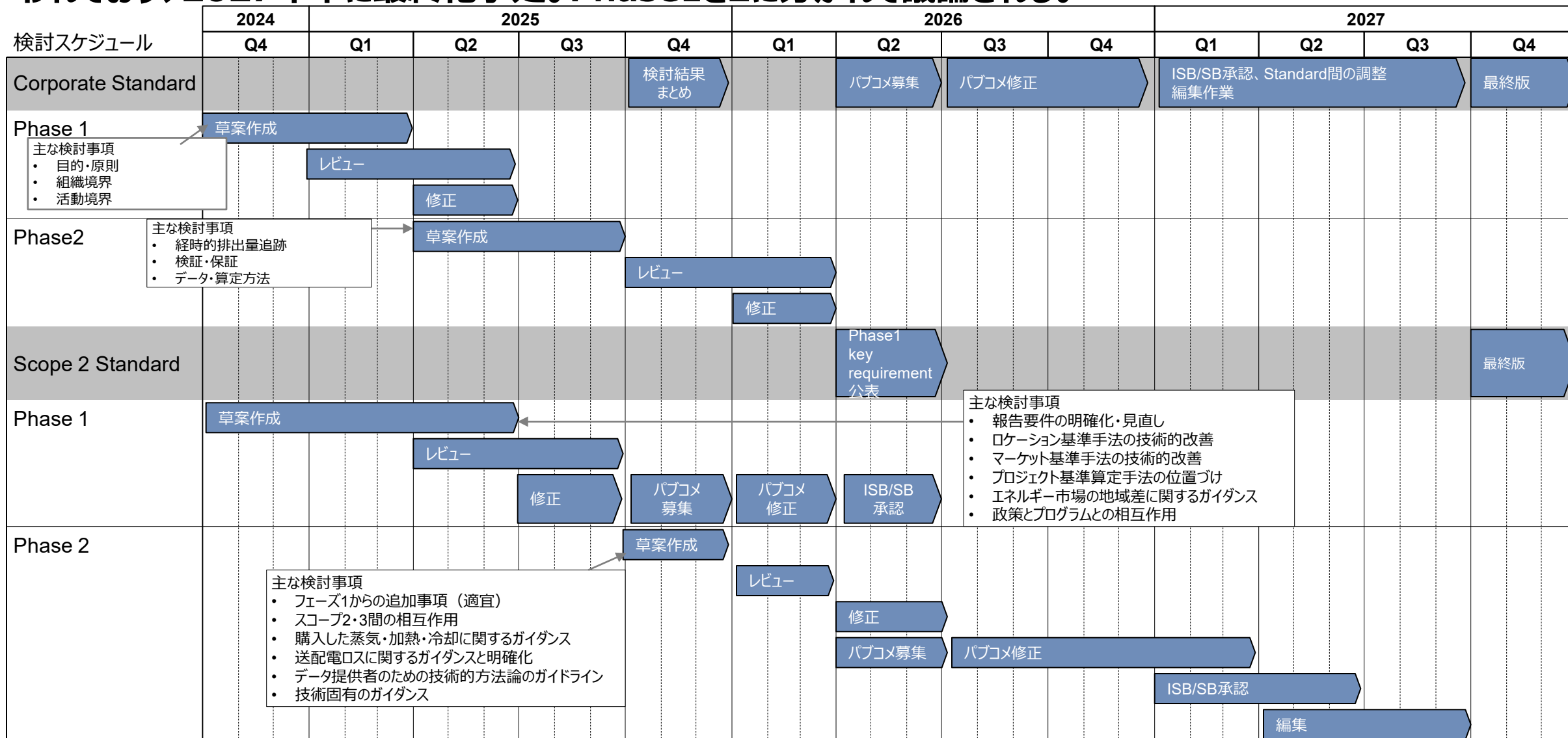


Corporate Value Chain (Scope 3)
Accounting and Reporting Standard
(2011年公表)



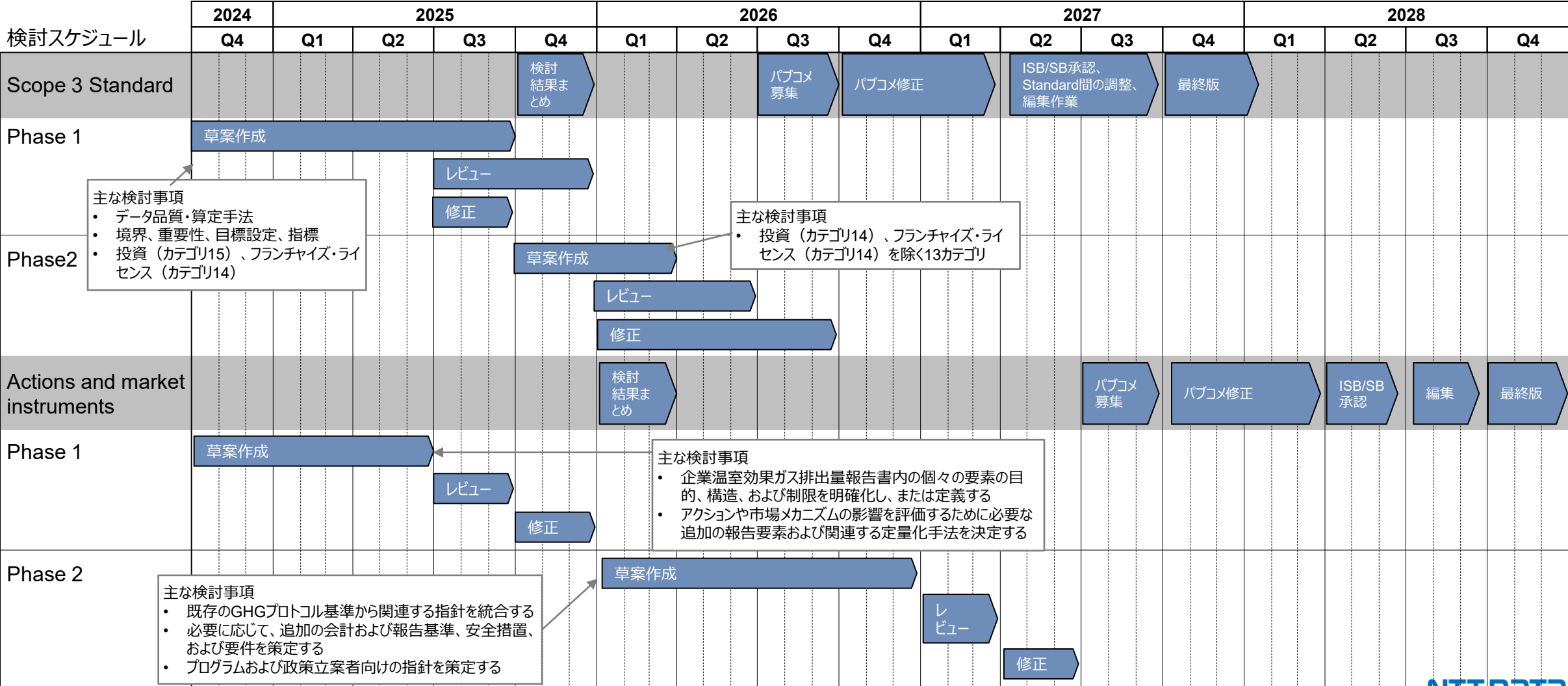
GHGプロトコルの改定 | 検討スケジュール

2024年9月より始まったGHGプロトコルの改定は、Scope1・2・3、コーポレート・スタンダード等を対象に行われており、2027年中に最終化予定。Phase1と2に分かれて議論される。



GHGプロトコルの改定 | 検討スケジュール

Actions and market instruments（削減行動や環境属性証明について議論）に関しては、Scope1～3との整合を取りながらステークホルダーと検討を行うため、最終化は2028年末を予定。



GHGプロトコルの改定 | スコープ2改定に向けた検討事項

スコープ2の改訂に向けたWG（Phase1）では、報告方法の変更やロケーション基準・マーケット基準の技術的改善等に関する議論が行われている。本日はロケーション・マーケット基準に関する議論の一部をご紹介します。

フェーズ	主な検討事項
Phase 1 (2024.9～2025.6)	- Clarify objectives and consider any changes to the required reporting methods 目的の明確化および報告方法の変更検討 - Location-based method technical improvements ロケーション基準の技術的改善 - Market-based method technical improvements マーケット基準の技術的改善 - Role of project-based accounting methodology relative to scope 2 accounting スコープ2におけるプロジェクトベース算定方法の位置づけ - Guidance for regional variation in energy markets エネルギー市場における地域差への対応指針 - Interaction with policies and programs 政策およびプログラムとの相互関係
Phase 2 (2025.7～)	- TWG consultation on any additional topics as necessary from Phase 1 フェーズ1で必要に応じて追加トピックに関するTWGとの協議 - Interactions across Scope 2 and Scope 3 スコープ2とスコープ3間の相互関係 - Guidance for purchased steam, heat, and cooling 購入した蒸気、熱、冷房に関するガイダンス - Utility-specific guidance and clarification on T&D losses ユーティリティ別の送配電（T&D）損失に関するガイダンスと明確化 - Technical methodology guidelines for data providers データ提供者向けの技術的手法に関するガイドライン - Technology-specific guidance 技術ガイダンス

GHGプロトコルの改定 | 最新の議論状況（ロケーション基準）

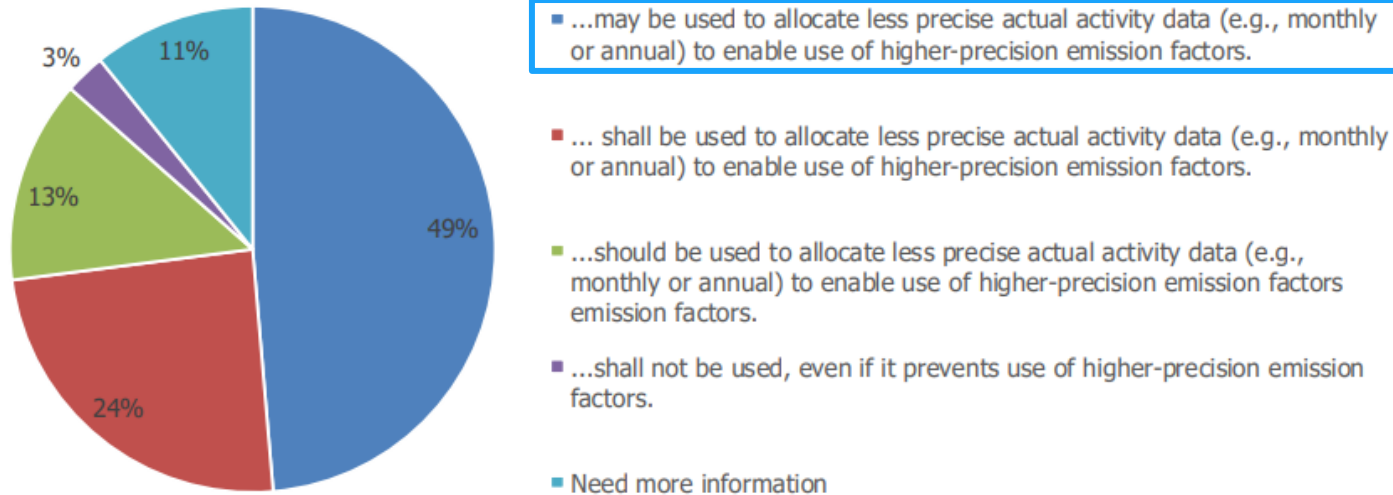
hourly matching（電力需給を時間単位で管理・報告）の導入是非について議論が行われている（議論にあたっては、複数の改定オプションがWG内で提示され、WGメンバーの投票によって議論が進行）
ロケーション基準においては時間単位での算定までは求められず（may）、年/月データなど取得可能なデータを用いて算定することが求められる

（仮訳）より精度の高い排出係数を使用できるようにするために、より精度の低い活動データの1時間ごとの推定データを使用すべきか？

Meeting 7, Poll 5: Should *estimated* hourly profiles of less precise activity data be used where available to enable use of higher-precision emission factors?

When actual hourly activity data is not available, activity data estimates using hourly profiles...

（仮訳）実際の1時間ごとの活動データが入手できない場合、1時間ごとのプロフィールを用いた活動データの推定は...



（参考）Hourly matchingについて

Hourly matching（同時性）とは、再エネ電力の需給が時間的に一致していること。現在は1時間単位での一致は要求されておらず、年度単位で一致すれば良いこととなっている。
※国際イニシアチブ「24/7 CFE Compact」をはじめ、hourly matchingに関する議論が進められている。

GHGプロトコルの改定 | 最新の議論状況（マーケット基準）

マーケット基準においても、ロケーション基準と同様に“Time matching”について検討中
マーケット基準に関しては 1 企業あたりの電力消費量に閾値（次頁参照）を設け、電力を多く消費する企業に対してはhourly dataでの報告を求める方向で検討が進められている

TWG-proposed requirements on hourly accounting for the MBM

Scope 2 Quality Criteria: All contractual instruments used in the market-based method for scope 2 accounting shall:

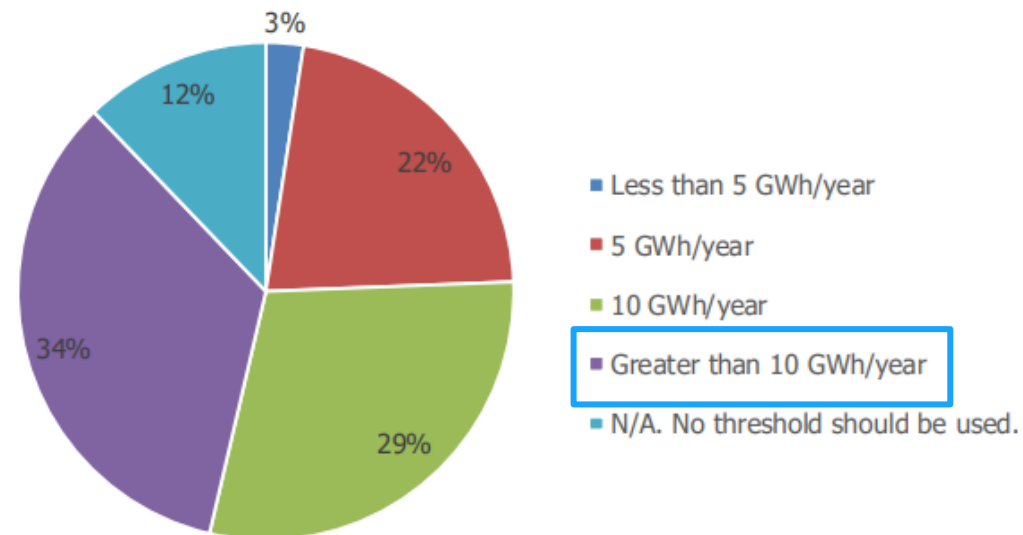
Criterion 4. Temporal correlation. Be issued and redeemed **for the same hour** as the energy consumption to which the instrument is applied, **except in certain cases listed in the Criterion 4 details below.**

Reporting organizations ABOVE [THRESHOLD] 閾値以上の場合	Reporting organizations BELOW [THRESHOLD] 閾値以下の場合
Companies shall calculate and report scope 2 emissions at the highest <u>available</u> precision of temporal granularity according to the hierarchies outlined below.	
Hourly activity data: 1. Hourly metered data 2. Facility-specific load profile 3. Market-boundary publicly available load profile 4. Time-of-use average 5. Flat average	Monthly or annual activity data: 1. Monthly bill or meter data 2. Flat average 3. Annual bill or meter data
Matched with hourly EFs derived from: 1. Hourly-stamped EACs or production data 2. Monthly or Annual-stamped EACs combined with hourly production meter data from same asset 3. Hourly meter data from electricity contracts 4. Facility-specific production profile 5. Regional publicly available production profile	Matched with monthly or annual EFs derived from: 1. Monthly-stamped EACs or monthly total production data 2. Annually-stamped EACs or annual total production data

GHGプロトコルの改定 | 最新の議論状況（マーケット基準）

閾値に関するWGメンバー間の投票結果によると、1社あたりの電力消費量を10GWh/年以上とする案が最も票数が多い

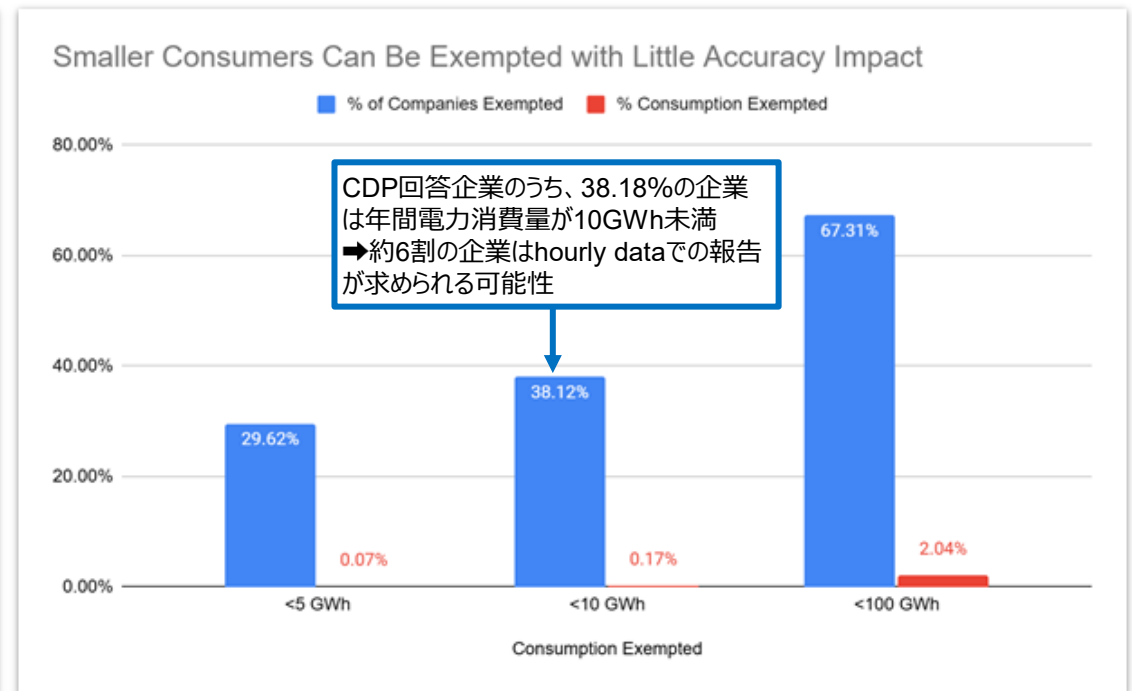
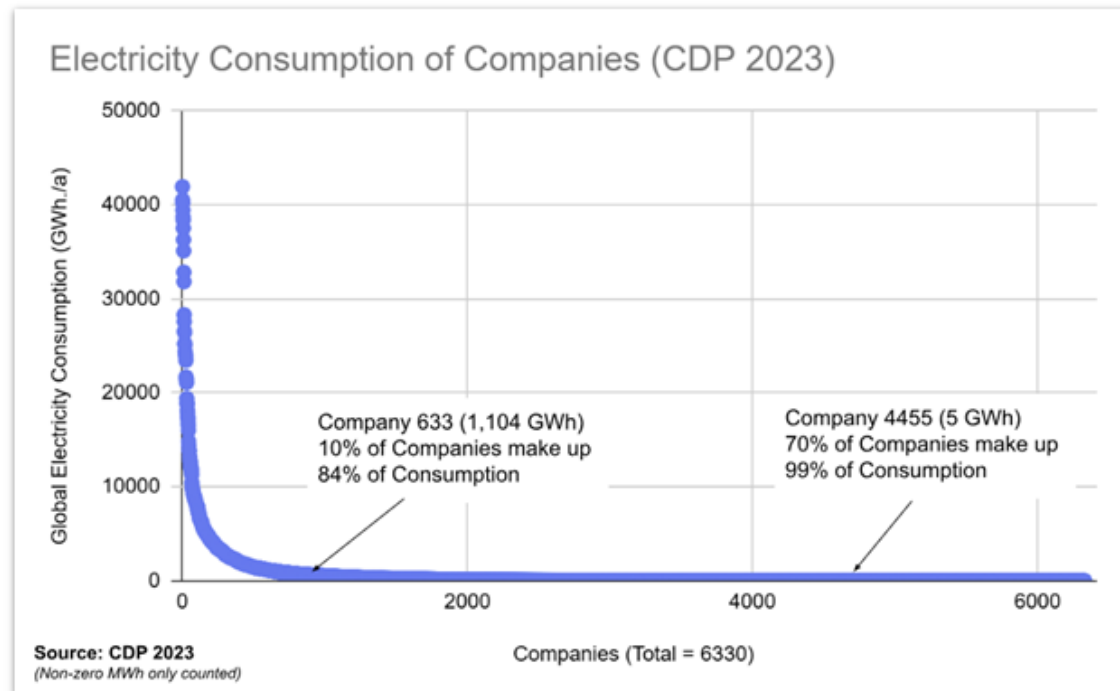
Poll Question 4. What threshold of electricity consumption volume is appropriate for determining which companies are required to apply the hourly matching requirement?
(時間単位のマッチング要件を適用する企業を決定するために、電力消費量のどの閾値が適切か。)



GHGプロトコルの改定 | 想定される企業への影響

CDP回答企業のうち、約6割の企業は閾値を超過し、hourly matchingによる報告対象企業となる可能性

- “67% of companies that report to CDP consume less than 100 GWh of electricity globally”
- Organizations under the 5 GWh/year/site threshold would not be required to match hourly but are encouraged to do so when feasible.



GHGプロトコルの改定 | 今後のスケジュール

6/25に第16回WGおよび委員による投票が実施され、最終化に向けた調整が行われている（最新状況については現時点で未公表）
2027年の改定後、すぐに企業へ対応を求めるか/段階的な導入とするかは引き続き議論が行われる見通し。

	May 14	Jun 4	June 11	Jun 25
Meeting #	14	15		16
Topics planned	Consolidated draft discussion • Deep dive on unresolved issues across both methods • Polling on feedback to inform final edits	Review of ISB feedback and finalization of location- and market-based recommendations • Deep dive on unresolved issues across both methods	Secretariat share final version of consolidated draft including any amendments or options	Voting on Phase 1 Final Recommendation for ISB

GHGプロトコル改訂内容の段階的導入に関する言及（MTG#14資料より抜粋）

The GHG Protocol Secretariat and ISB are actively considering whether and how phase-in measures may support implementation of new Corporate Standard and specifically Scope 2 requirements.（GHGプロトコル事務局とISBは、新しいコーポレート・スタンダード、特にスコープ2の要求事項の実施を支援するために、どのような段階的導入が可能か検討している。）

- Any decisions on timing or structure of a phase-in will be made through GHGP governance processes.（段階的導入の時期や構造に関する決定は、GHGPガバナンスプロセスを通じて行われる。）
- Current expectation is that the full Corporate Standard revision will be finalized by the end of 2027; any phase-in would be considered thereafter.（現段階の想定では、コーポレートスタンダードの全面改定は2027年末までに最終決定され、段階的導入はそれ以降に検討される。）

GHGプロトコルの改定 | 最新情報へのアクセス

GHGプロトコル改定に関する最新情報は、同機関HPの「Standards Development and Governance Repository」にて公開中。

The screenshot shows the homepage of the GHG Protocol Standards Development and Governance Repository. The header features the GHG Protocol logo and a navigation menu with links to STANDARDS & GUIDANCE, TOOLS & RESOURCES, E-LEARNING, BUILT ON GHG PROTOCOL, EVENTS & NEWS, CONNECT, and ABOUT. A search icon is also present. The main heading is 'Standards Development and Governance Repository'. Below this, a paragraph explains the repository's purpose: 'GHG Protocol's robust multi-stakeholder governance process is integral to our work to develop comprehensive global standards, guidance, tools and training for business and government to measure and manage their GHG emissions. This document repository stores Steering Committee, Independent Standards Board, and Technical Working Group materials to ensure transparency and accountability. More details about the composition and roles of our governance and advisory bodies can be found [here](#).' A note states 'New materials are added to the document repository every Friday.' Below this is a filter section with four dropdown menus: Year, Governing Body, Workstream, and Subgroup, each currently set to '- Any -'. At the bottom of the filter section are two red buttons: 'Apply' and 'Reset'.

GREENHOUSE GAS PROTOCOL

STANDARDS & GUIDANCE TOOLS & RESOURCES E-LEARNING BUILT ON GHG PROTOCOL EVENTS & NEWS CONNECT ABOUT

Standards Development and Governance Repository

GHG Protocol's robust multi-stakeholder governance process is integral to our work to develop comprehensive global standards, guidance, tools and training for business and government to measure and manage their GHG emissions. This document repository stores Steering Committee, Independent Standards Board, and Technical Working Group materials to ensure transparency and accountability. More details about the composition and roles of our governance and advisory bodies can be found [here](#).

New materials are added to the document repository every Friday.

Year

- Any -

Governing Body

- Any -

Workstream

- Any -

Subgroup

- Any -

Apply Reset